

凍結融解胚移植の際の内膜調整法別(ホルモン補充周期つまり HRC 周期と自然周期)の妊娠
成績比較検討

徐クリニック ART センター

徐 東舜

(目的) 凍結融解胚移植の際の内膜調整法別移植の成績に関してはいずれが優れているか
はいまだ明確ではない。そこで今回我々は後方視的に両者の胚移植での成績を比較検討し
た。

(方法) 2016年1月から2021年6月までに3BB以上のSETを行った凍結融解胚移植1444
症例を対象とした。内訳はHRC周期792症例、自然周期652周期で、それぞれの妊娠率、
着床率、流産率などを比較検討した。

(結果) 卵胞発育不良や内膜発育不良などによる移植キャンセル率は1.2%vs 5.0%で自然
周期が有意に高かった。不妊原因別では排卵因子が21.7% vs 5.7% で有意にHRC周期が
高かった。背景では既往移植回数は 1.3 ± 1.7 vs 1.5 ± 1.9 と自然周期で有意に多かった。妊
娠率、着床率では妊娠率は47.0% vs 53.2%と自然周期で有意に高かった。不妊要因別の
妊娠率に両者の差は認めなかった。流産率は19.4% vs 17.3%で有意ではないがHRC周期
が高い傾向にあった。年齢別(29歳以下、30~34歳、35~39歳、40歳以上)のHRC周期、
自然周期の妊娠率は、50.0% vs 61.8%、52.2% vs 57.4%、47.0% vs 53.9%、37.6% vs
43.3%いずれの年齢別でも自然周期が有意ではないが高い傾向にあった。流産率の年齢別
は29歳以下では24.1% vs 14.3%、40歳以上では32.2% vs 18.2%とHRC周期が有意では
ないが高い傾向にあった。

(結語) 凍結融解胚移植の際の内膜調節は可能な限り自然周期にするのが望ましい。